

医局の取り組みとチームアプローチ

副院長 田沼直之

医局は医師、歯科医師で構成されている部門で、主に病棟と外来の診療を担当しています。令和2年6月に旧府中療育センターと多摩療育園が統合され、医師の定数は院長、副院長を含めて20名、歯科医師定数は3名となりました。

新センター開設時、医師は20名でしたが、5年間に医師の退職に伴い欠員が増大し、令和7年1月現在の医師数は16名（内訳は小児科医15名、整形外科医1名）となっております。歯科医師は新センター開設時2名でしたが、現在は3名による診療体制となっております。

病棟部門において、医療病棟は1病棟を医師2名、生活病棟は医師1名で担当しています。外来部門は2名の外来専任小児科医を中心に、病棟を担当しながら外来診療も行う医師と、外部からの会計年度任用職員医師（非常勤）が診療にあたっております。これらの診療業務の他に、外来のリハビリテーション前診察、通園診療、通所前診察も行っております。

診療については、当センターでは多職種でのチームアプローチが充実しています。院内感染制御チーム（ICT）、栄養支援チーム（NST）、呼吸サポートチーム（RST）、痙攣治療チーム、緩和ケアチーム、褥瘡対策チーム、意思決定支援チームなど、多くのチームがあり、各チームのリーダーを医師が務めています。

長期入所利用者の高齢化に伴い、悪性腫瘍の発生が増加しています。定期検査等を行い早期発見に努めていますが、自らの体調不良を訴えることができない利用者も多く、進行がんとして発見される場合も少なくありません。必要に応じて多摩総合医療センターの診療各科と連携しています。利用者の最善の利益とは何かを常に考え、ご本人・ご家族の意向を確認し、病棟での多職種による倫理カンファレンスを開催し治療方針を決定しています。意思決定支援チームはこのプロセスを支援しており、生活の質の維持・向上のための疼痛緩和は緩和ケアチームがサポートしています。これらのチームアプローチは、他部門との連携協力のもとで成果を上げているものであり、今後もさらに強化が望まれる体制となっています。



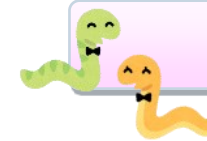
〒183-8553
東京都府中市武蔵台2-9-2
東京都立府中療育センター
電話 042(323)5115
FAX 042(322)6207

--*ホームページもご覧下さい*-*-*

<http://www.fukushi.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>

ひだまり

都立府中療育センター新聞 第565号 発行日 令和7年1月31日



新年のごあいさつ

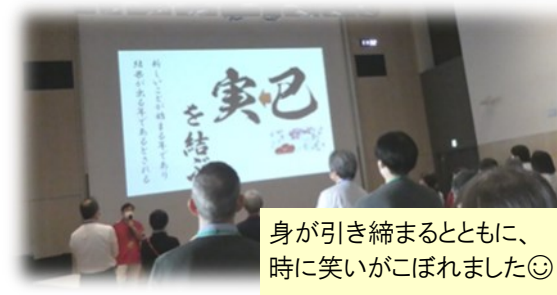
府中療育センター院長 伊藤昌弘

新年あけましておめでとうございます。また皆様、年末年始のお仕事本当にお疲れさまでした。これからもよろしくお願いいたします。

今年は巳年です。蛇は一般に忌み嫌われていますが、復活や再生のシンボルでもあり、WHO、日本医師会や米国医学会のロゴに杖にからみついた蛇が使用されています。これは、ギリシャ神話で死者を蘇らせて神の領域に踏み込んだ医学の神であるアスクレピオスの杖がモチーフになっています。また巳を“実”

にかけて「実を結ぶ」とされ、新しいことが始まる年であり、結果が出る年でもあります。

さて、令和6～8年度の東京都の障害者・障害児施策推進計画では、全ての都民が共に暮らす共生社会の実現、障害者が地域で安心して暮らせる社会の実現、障害者がいきいきと働ける社会の



実現と、3つの基本理念が提唱されています。計画における4つの施策目標・取組のひとつに「地域における自立生活を支える仕組みづくり」として、入所施設・精神科病院から地域生活への移行を促進するとともに、地域生活基盤と相談支援体制を整備すること等により障害者が地域で安心して自立生活を送れるようにすることが謳われております。これは、長期利用者に対応している府中療育センターの存在意義を考えることが必要になります。今後の障害児者施設の役割として、施設の開放や社会貢献等を実践することで地域の資源のひとつになり、療育センターでの生活が地域で暮らすことになることが求められています。小池都知事の年始の挨拶では「大胆な発想で変革に挑み活力みなぎる東京を共に創り上げてまいりましょう」と話されております。今後、皆様で何ができるか、何をしなければいけないのかを考えていただき、また実践していただきたいと思います。

出生数の減少と死亡者数の増加から、年間90万人弱の人口が減少しているなか、当面は医師や看護師不足の解消はなく人材不足が深刻な問題になります。そのため医療のDX化が必要とされていますが、一番大事にすべきことはやはり人です。個人の質を高める必要があります。人材育成がセンターにとっても重要になります。人の質を高めることでセンターの質も高まり、自分の職場を誇りに思えるようになります。本年、巳年は医療の年であり、センター5周年の節目にもなります。今後の府中療育センターの在り方を一緒に考えていきましょう！



1月お楽しみ会「招待観劇」

2 B病棟 福祉職



1月のお楽しみ会は、大道芸パフォーマーのYu-Ki（ゆうき）さんをお招きして招待観劇会を行いました。音楽に合わせてジャグリングやヨーヨー等を使ったドキドキハラハラのパフォーマンスを披露してくれました。利用者全員に見えるよう汗をかきながら前後に動き、うまくいかない時も笑いに変え、会場が笑顔で包まれました。パフォーマンスを観て「ふふふ」と笑い声を出している方、手拍子をしている方、音楽に合

わせて身体を揺らしている方など思い思いに楽しんでいました。会の雰囲気を全身で感じている利用者と一緒に、スタッフも手拍子や掛け声をして大いに盛り上がりました。近くで観る生パフォーマンスは圧巻でした。Yu-Kiさんから「初めての場所でドキドキしたけど楽しくパフォーマンスができました！」とキラキラ輝く笑顔でメッセージをいただきました。

会終了後、「また観たいね」という感想が多く聞かれていました。



病棟活動紹介～生活病棟編～

保育担当 柏木奈穂美

9月に医療病棟の日中活動の様子をお伝えしましたが、今回は生活病棟の活動の様子をお伝えしたいと思います。

生活病棟の中で、2つの病棟ではデイルームにマットを敷いたスペースを作っています。また、床での活動の日を設け暖かい床でゴロゴロ過ごせる工夫もしています。グループ活動は居室毎で実施をしている病棟も多く、同じ部屋同士で行うことで仲間意識も芽生えているのではないかと思います。

広くて暖かい床での活動日



第41回日本障害者歯科学会総会・学術大会 参加報告

歯科医長 笹尾真美



日本障害者歯科学会は5000余名の会員で構成されています。令和6年度の学術大会は12月13日から15日、「より身近な障害者歯科医療を目指して」をテーマに、南国の強い島風吹く中、沖縄コンベンションセンターで開催されました。当センター歯科（当科）から歯科医師3名、歯科衛生士3名が参加し、一般演題3題（口演2題：行動調整に自作動画を活用する取組、症例報告、ポスター1題：前勤務先から歯科保健推進支援の報告）を発表しました。教育講演に「神経発達症の歯科への行動調整について」のお話がありました。歯科診療時の身体抑制はできるだけ避け、個々の特性に寄り添い、できることを少しずつステップアップして進めていく。でも齲蝕（むし歯）や歯周病などの必要な治療は優先する。その際には全身麻酔や鎮静を検討し、障害児・者に歯科へのトラウマ形成をさせないように口腔衛生管理に努める。まさに当科の目指すところと思い共感しました。

全身麻酔下歯科治療を提供できる施設はまだ不足しています。その中で当科が地域に貢献できる一施設として位置付けられるよう発展できればと思っています。

新春トントン相撲大会

3 C病棟 岡村夏歩

1月15日に、3 C病棟のデイルームにてお楽しみ会の「新春トントン相撲大会」を行いました。行事の前から利用者がお相撲さんのぬりえを丁寧に塗ったり、ご自身の名前を絡めて「〇〇乃海」や「●●ノ里」などお相撲さんらしい名前を考えたりし、お楽しみ会当日に期待を膨らませていました。当日はトーナメント形式で大会を進めていき、横綱になることを目指して戦いました。なかなかの接戦も多く見られ、利用者はもちろんのこと職員も一緒に盛り上がることができました。また、取り組みの途中で離れてしまったり、すぐに倒れてしまったりというアクシデントや、行司役を務めた利用者の曖昧な判定では笑い声も聞こえ、楽しい雰囲気で『新春トントン相撲大会』は幕を閉じました。

